

特許抄録

含鉛バナチン酸よりバナチン酸石灰を収得する方法 (1)第 1854 號 (昭 17-4-30) (2) 昭 15-4-16 (3)(4) 大河平光雄

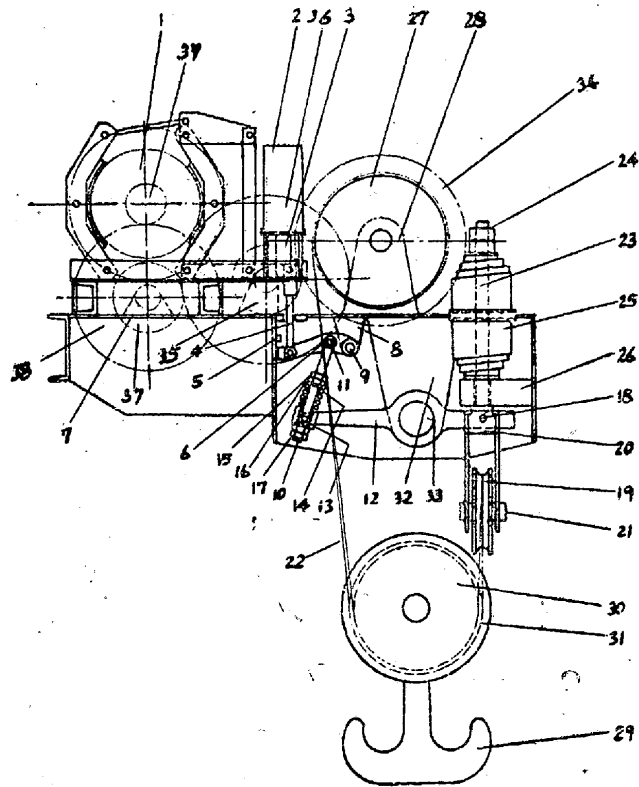
本發明は含鉛バナチン酸を曹達鹽及還元剤にて處理し、鉛を金屬鉛として分離したる後の含バナチン酸液又は更に鉛化合物に生成して溶解浸出操作の上、鉛を鹽化物として収得したる後の含バナチン酸液を加熱沸騰水中に投入し攪拌しつゝバナチン酸の曹達鹽を溶解浸出する際、浸出槽内部に豫め酸化力強き曹達鹽其他の酸化剤を添加し置くか、又は溶解浸出操作中添加する事に依り酸液又は残滓中のバナチン分を可溶性のバナチン酸曹達鹽に生成し溶解して得たる抽出液中に鹽化石灰の溶液を注入しバナチン酸曹達鹽をしてバナチン酸石灰として沈析せしめこれが沈澱物を収得する方法に係る。

銅反射鏡の製作法 (1)第 1863 號 (昭 17-4-30) (2) 昭 15-10-26 (3) 守屋義磨・佐藤正三 (4) 東京芝浦電氣株式會社

本發明は光學的に研磨せる硝子質母型上に真空蒸發又は陰極飛唾に依り中間層として 1μ 以下の如き薄きクロム層を形成せしめ次に該中間層上に反射面となるべき銅層を被着せしめる後適當なる物理的方法で該銅層を剝離せしめて銅反射鏡を製作する方法に係る。

鐵造起重機に於ける過負荷軽減装置 (1)第 1724 號 (昭 17-4-20) (2) 昭 16-5-17 (3) 伊野隣太郎 (4) 住友機械工業株式會社

本發明は圖示する如く複巻式捲胴用鈎合溝車の支持金具を主發條を介して起重機枠に懸吊し鈎合溝車の支持金具の運動を介して電磁制動機の電磁石移動鐵心に傳達せしめ荷重の捲上げを爲さずして懸吊中吊鈎に過大なる押下力が加はりたる時自動的に電磁制動機を釋放せしめ過大なる押下力が消失すれば自動的に電磁制動機を動作せ



しめる様にした鐵造起重機の過負荷軽減装置に係るものである。

アルミナ質鑛石の燒結法 (1)第 1745 號 (昭 17-4-20) (2) 昭 15-9-3 (3)(4) 宮田 等

本發明はガラスボール、ボーキサイト其他の礬土質鑛石に必要な應じ酸化鐵を混加し其の珪酸及酸化チタンをして夫々ファイヤライト及イルメナイトを生成するに足る組成となしこれを微細に粉碎し均密に混合したる後該混合物に其の含有する酸化鐵を亞酸化鐵迄に還元するに足る炭素を加へ約 700°C に加熱し上記酸化鐵を一旦亞酸化鐵に還元したる後更に約 1200°C に加熱し上記混合物中の珪酸酸化チタン及酸化鐵をファイヤライト及イルメナイトの化合物に變成し熔融還元處理に於てこれを分離するアルミナ質鑛石の燒結法に係る。

マグネシウム基合金 (1)第 1751 號 (昭 17-4-20) (2) 優 (獨) 昭 12-11-27 (3) フランツ・ザウエルワルド; ルードウィヒ・ホルツ・ハンスアイゼンライヒ; (4) イー・ゲー・ファルベン・インダストリー・アクチエンゲゼルシャフト

本發明はジルコニウム約 $0.05\sim 2.0\%$ を含有し更に必要に應じ熔融マグネシウム中に於てジルコニウムと結合して固形偏析性化合物を生ぜざる金屬を含有し殘部がマグネシウムより成る合金に係る。

白金合金 (1)第 1752 號 (昭 17-4-20) (2) 昭 15-6-7 (3)(4) 茨木康之

本發明は銅 $23\sim 27\%$; 鐵 $3\sim 4\%$; 銻 $1.5\sim 2\%$; タングステン $1\sim 3\%$; ロチウム $0.05\sim 0.07\%$; 珪素 0.25% 以下を含み殘部がニッケルより成る白色合金に係る。

鋼等の熱處理用保護雰氣の製造方法 (1)第 1753 號 (昭 17-4-20) (2) 優 (米) 昭 14-10-25 (3) アルベート・エヌオーチス (4) 東京芝浦電氣株式會社

本發明は略完全燃焼をなす如き成分割合を有する可燃性ガス及空氣の混氣を燃焼し次に其の燃焼生成物を 2 分し其の一部を略純窒素を生成する如く處理すると共に前記燃焼生成物の殘部を窒素を主成分とし外に一酸化炭素を含有する混氣を生ずる如く處理し最後に前記處理部分を再混合し不活性雰氣を製造する方法に係る。

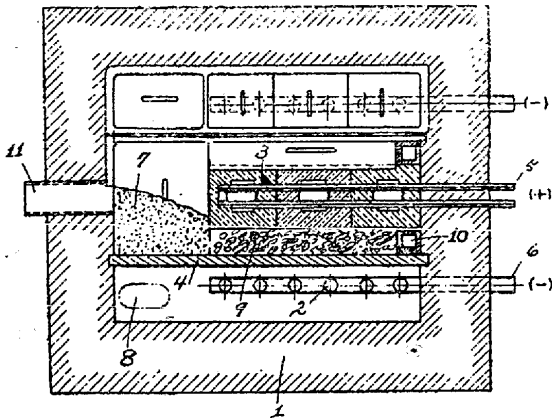
低品位チタニウム鑛滓より二酸化チタニウムを経済的に回収する方法 (1)第 1662 號 (昭 17-4-15) (2) 昭 16-1-15 (3) 有山恭藏 (4) 株式會社昭和製鋼所

本發明は含チタニウム鑛滓又は砂鐵を處理して鐵を採別する含チタニウム鑛滓又は其他の低品位チタニウム原料を少量の炭酸曹達と混じて熔融し該熔融物を水中に投入急冷し然る後生成物を水の存在に於て常壓又は加壓の亞硫酸ガス又は亞硫酸瓦斯を含有する溶液にて處理してチタニウムの殆んど全部を亞硫酸水中に浸出せしめ殘滓を濾過せる後溶液を加熱して加水分解に依りて水酸化チタニウムを沈澱せしめると同時に溶液中の亞硫酸ガスの大部分を蒸發せしめる低品位チタニウム鑛滓より二酸化チタニウムを回収する方法に係る。

金屬マグネシウム製造方法 (1)第 1668 號 (昭 17-4-15) (2) 昭 15-12-30 (3) 二司丈夫 (4) 信越化學工業株式會社

本發明は兩種電極に依りて生ぜらるゝ電位差の漸次遞減する経路

を電解槽に横斷的に作置する如くなし以て電解電力を電解槽の一側邊部分に於て最大に、又これに對する側邊部分に於て最小ならしめ該對側邊部分の槽壁に生成マグネシウムの溜所を設けて電解液をして該溜所の方向に連續的に對流浴流を生ぜしむる如くならしめたるマグネシウム電解製造装置(圖面參照)を使用し電解槽内陽極とこれに



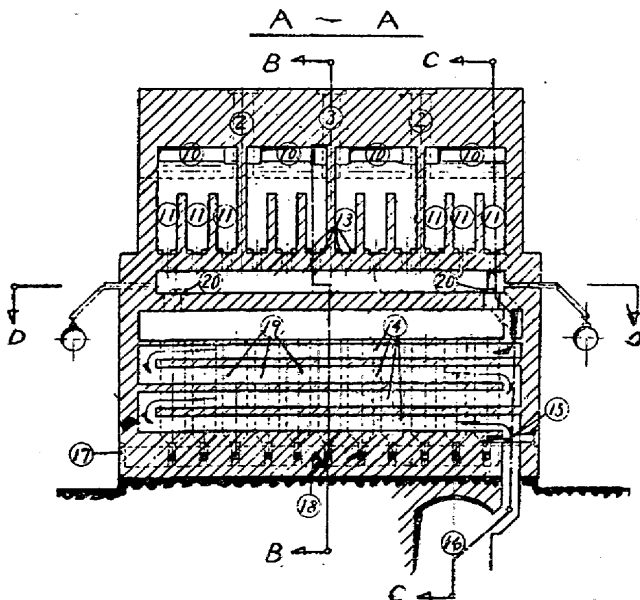
併置したる隔膜との間隙内に生ぜられ且生成鹽素を伴流する浴流の始端より酸化マグネシウム、水酸化マグネシウム、炭酸マグネシウムの單獨物又は相互混合物に炭素質を配合したる作用物質を投入しこれを右浴流の上層を浮流せしめて浴流終端をなす槽内部分に貯溜するに至らしめ該貯溜所に於て右作用物質と生成鹽素との作用を完からしめて鹽化マグネシウムを生成する如くならしめたる金屬マグネシウム製造法に係る。

マグネシウム又はマグネシウム合金の防蝕法 (1)第 1669 號(昭 17-4-15) (2) 昭 15-11-21 (3)加福均三, 内田謙一 (4)淺野八郎

本發明は樹脂石鹼の水溶液又はこれに磷酸アルカリ、蓆酸アルカリ、硫化アルカリ等の如き水に不溶性のマグネシウム鹽を作る鹽類を混合したるものを電解液とし直流又は交流電壓を以て電解處理する工程と該處理後過熱水蒸氣中に曝す工程との結合を特徴とするマグネシウム又はマグネシウム合金の防蝕法に係る。

ピッチ、コークス製造爐 (1) 第 1670 號(昭 17-4-15) (2) 昭 15-12 20 (3) 大野 宏 (4) 日本製鐵株式會社

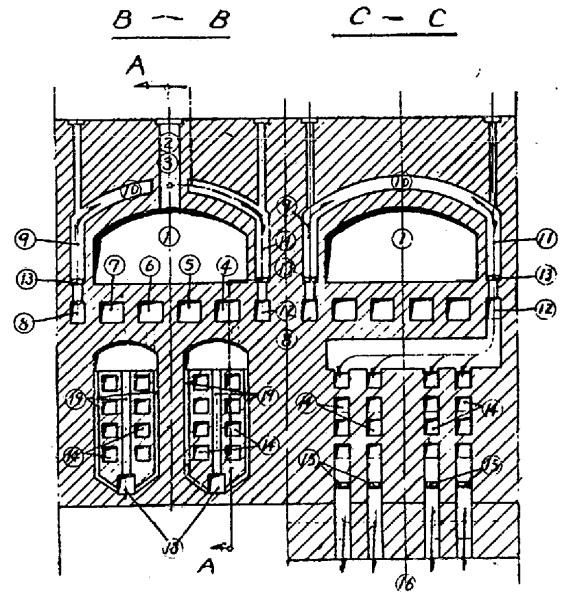
本發明は圖示する如く爐床下に數條の水平加熱焔道を配設し該焔



道を爐の天井上の焔道にて相連絡する數條の左右爐壁を加熱する垂直加熱焔道と連結せしめ斯くて爐室の上下左右の四方より圍繞加熱し得る様ならしめたるピッチコークス製造爐に係るものである。

ピッチコークス製造爐 (1)第 1671 號(昭 17-4-15) (2)昭 16-3-13 (3) 中尾新六, 正井省三, 津田榮太郎 (4) 住友化學工業株式會社

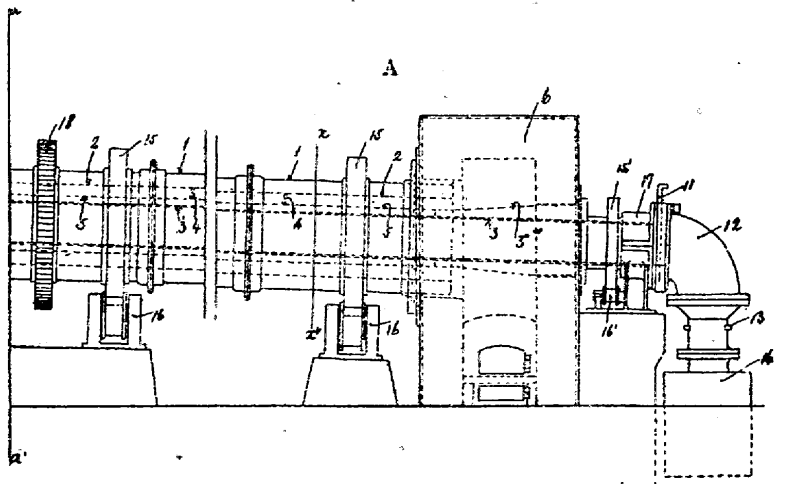
本發明は圖示する如くピッチコークス生成室を其の水平斷面積を底部に至るに従ひ大ならしめ且底部のコークス取出口に蓋を設けたる堅型となし該コークス生成室頂附近に設けたるバーナーより燃燒せる加熱用ガスを該生成室壁に隣接する數個の焔道により下降し底



部に至り各々相隣れる焔道を上昇して所謂逆ヘヤーピン型を形成せしめてピッチコークス生成室を間接に加熱し得べくなし。ピッチ裝填口をバーナーより上部に開口せしめたるピッチコークス製造爐に係るものである。

二重式廻轉窯 (1)第 1672 號(昭 17-4-15) (2)昭 15-12-4 (3) (4) 和田吉彦

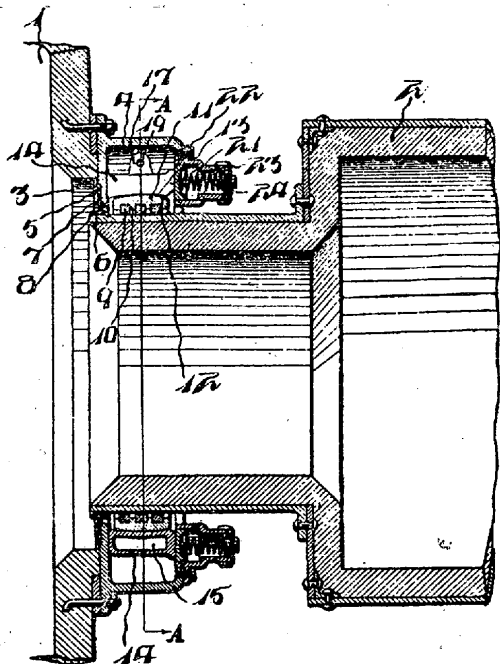
本發明は圖示する如く外表は鐵板にて包圍し内面に煉瓦を内張りせる外筒内に内面を鐵板にて内張りし外面は數區に區劃せる縱通焔道を構成せる耐火煉瓦體より成る内筒を嵌合して二重となし内筒上端は煙室を貫通して先端に供材口と排氣口とを備へ下端は同じく燃燒室を貫通して製品加減弁を経て曲管に依り製品取出弁を有する製



品槽又は製品冷却装置に連絡せしめたる二重式廻轉窯に係るものである。

廻轉窯連結部装置の改良 (1) 第 1673 號 (昭 17-4-15) (2) 昭 15-12-4 (3)(4) 浮田信英

本發明は圖示する如くガス室と廻轉胴との接合部分に於て廻轉胴の外周に環を設け該環を嵌入せしむべき凹部を有する環狀押金をこれに嵌合し該環狀押金の外面は弧狀部と爲し該弧狀部の弧面より緩き弧面部を内面に有する環狀金具を前記環狀押金の外面に嵌合し該



環狀金具の一侧に突出部を設け、該突出部を押壓せしむべき環狀受體を環狀溝型枠に設けたる保持筒に押し入り圓周上適當に配置されたる發條を設けて環狀受體を押壓せしめたる廻轉窯連結部装置の改良に係るものである。

水酸化ヴァナヂウム沈澱法 (1) 第 1674 號 (昭 17-4-15) (2) 昭 15-6-25 (3)(4) 向山幹夫、石塚幸次郎

本發明は砂鐵中のヴァナヂウムを濕式に依り鐵と分離抽出し水酸化ヴァナヂウムとして沈澱せしめるに際し加壓塞を使用しヴァナヂウム酸曹達として溶解せしめ次に還元剤を加へ濾過操作中の分解沈澱を抑制し、然る後再び酸化すると同時に沈澱核を與へて加水分解に依る沈澱を促進せしめるヴァナヂウム抽出法に係る。

罐用鋼の處理方法 (1) 第 1675 號 (昭 17-4-15) (2) 昭 14-6-1 (3)(4) 今井慶三郎

本發明は低炭素中マンガ鋼を以て鍍材としこれに目切後一旦 830°C 附近の Ac₃ 變態を起さしむる温度に加熱し次に Ar₃ 變態を生ずる温度より僅かに上温なる 700°C 附近の温度に緩冷して保持しこの温度より直ちに水中建洋を行ふ罐用鋼の熱處理方法に係る。

光輝燒鈍用ガスの製造装置 (1) 第 1676 號 (昭 17-4-15) (2) 昭 14-10-14 (3) 呂璞石、河上益夫 (4) 高砂鐵工株式会社

本發明はアムモニアと空氣との混合ガスを燃焼後水分を除去して得たる燃焼生成ガスを高温に加熱せる鑄鐵屑片中を通過せしめて光輝燒鈍用ガスを製造する際アムモニアの空氣に依る燃焼生成熱を以て鑄鐵屑片と該燃焼生成ガスとを加熱する装置に係るものである。

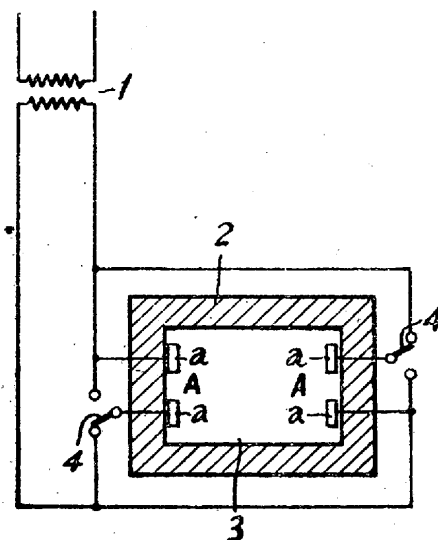
低合金亞鉛被覆電氣ケーブル (1) 第 1692 號 (昭 17-4-15) (2) 昭 16-3-18 (3) 飯沼 元 (4) 國際電氣通信株式会社

本發明は亜鉛含量 99.5~90.0% なる低合金亞鉛の壓延帶板にてケ

ーブル芯を包み綜合電氣熔接を行ひて金屬被覆を形成せしめたる電氣ケーブルに係る。

鹽槽式電氣爐 (1) 第 1697 號 (昭 17-4-15) (2) 昭 15-10-22 (3) 松野 要 (4) 松下電器産業株式会社

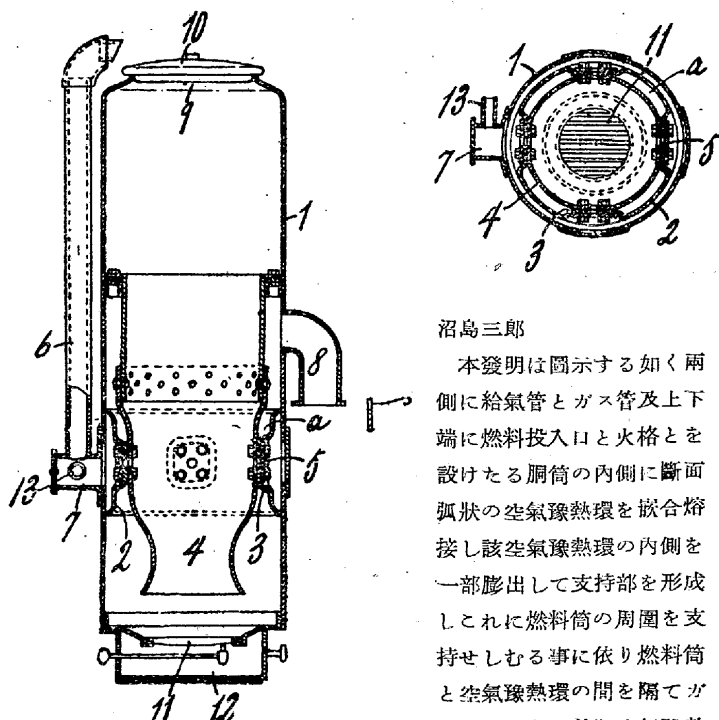
本發明は圖示する如く相接近し通電せらるゝ一對の電極數對を對設し該各對の電極を各一種に切換へ通電すべくししたる鹽槽式電氣爐に係るものである。



青化製鍊法に於ける浮選精鍊豫備處理方法 (1) 第 1544 號 (昭 17-4-6) (2) 昭 15-10-28 (3) 佐藤光次 (4) 日出興業株式会社

本發明は多數枚組合はせたる電解用電極を備へて直流電氣を通ずると共に空氣吹込口を備へて空氣を吹込み得べく構成したる電解酸化槽を使用しこれに硫化物を含む金銀鍍の浮選精鍊を泥漿狀となして装入し其の中に空氣吹込口より空氣を吹込むと同時に電解用電極に直流電氣を通じて硫化物を酸化除去する青化製鍊法に於ける浮選精鍊の豫備處理方法に係る。

ガス發生爐 (1) 第 1547 號 (昭 17-4-6) (2) 昭 15-7-24 (3)(4)



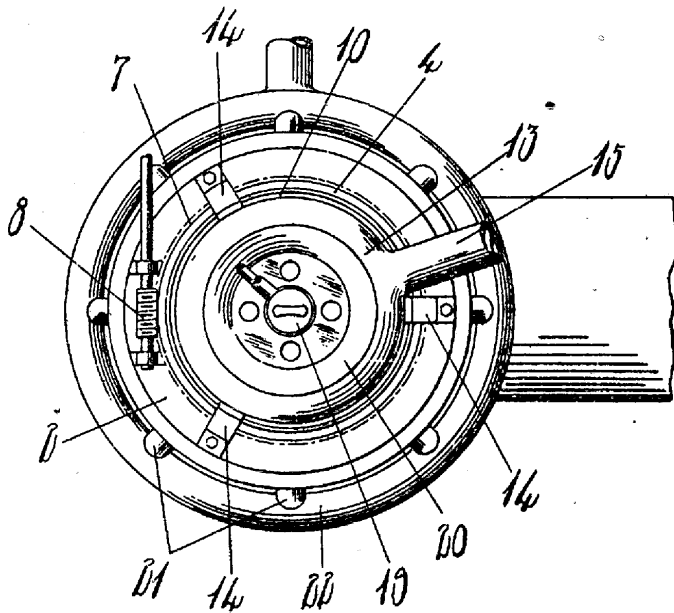
沼島三郎

本發明は圖示する如く兩側に給氣管とガス管と上下端に燃料投入口と火格とを設けたる胴筒の内側に斷面弧狀の空氣豫熱環を嵌合熔接し該空氣豫熱環の内側を一部膨出して支持部を形成しこれに燃料筒の周圍を支持せしむる事に依り燃料筒と空氣豫熱環の間を隔てガス通路となし前記空氣豫熱

環の支持部より燃料筒に噴氣孔を貫通して該支持部及噴氣孔を前記ガス通路の高熱に包ましめたるガス發生爐に係る。

微粉鎂焙燒爐 (1)第 1549 號 (昭 17-4-6) (2) 昭 15-11-27 (3) (4) 枳田小太郎

本發明は圖示する如く爐の頂部中心位置に設けたる燃料噴出嘴の周圍の底部に數個の微粉鎂噴出管を有する下部環狀樋を回轉せしめ該環狀樋を蓋する如く一側に微粉鎂送入管を有する上部環狀樋を倒伏状態に爐に固定し且爐壁を貫通する數個の送氣管を夫々爐壁の側より内側に斜上向に設けたる微粉鎂焙燒爐に係るものである。



不銹鋼の製法 (1) 第 1550 號 (昭 17-4-6) (2) 昭 15-2-7 (3) (4) 永井雄二

本發明はニッケルマツト (普通多量の硫黄及鐵分を含む) に珪石炭及素材を加へ電氣爐中に於て加熱還元してニッケル鐵及珪素の合金を作り次にこれをクロム鐵、鐵及石灰と共に加熱熔融する不銹鋼の製法に係るものである。

低温熔融硬質鐵 (1) 第 1551 號 (昭 17-4-6) (2) 昭 15-9-26 (3) 利光一久 (4) 三菱重工業株式會社

本發明は磷 3~8%; 錫 2~10%; 亞鉛 0.1~4%; 殘部銅より成る低温熔融硬質鐵に係るものである。

連續式真空加熱方法 (1) 第 1552 號 (昭 17-4-6) (2) 昭 14-11-9 (3) 小川弘二 (4) 住友電氣工業株式會社

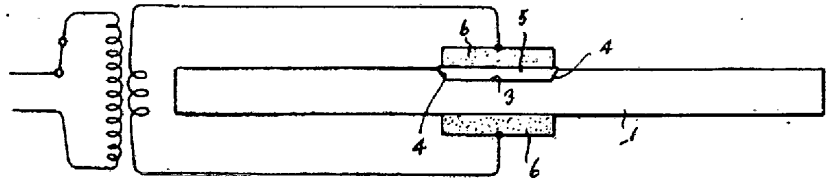
本發明は兩端に出入口を有する氣密爐中に排氣加熱したる後不作用ガスを吹込みつゝ入口より被加熱物を装入し再び該爐内を密閉排氣し加熱を行ひたる後不作用ガスを吹込みつゝ出口より加熱物を取り出し該爐内を排氣する連續式真空加熱方法に係る。

マグネシウム及其合金の防蝕處理方法 (1) 第 1553 號 (昭 17-4-6) (2) 昭 16-3-20 (3) 島津嘉郎, 高嶋得郎 (4) 東化工業株式會社
本發明はカルシウム, マグネシウム, アルミニウム, 滿庵, 亞鉛, 又は鐵其他其の正規磷酸鹽が水に不溶性又は難溶性なる金屬の酸性磷酸鹽及これ等金屬の珪弗化鹽とアルカリ金屬のクロム酸鹽又は重クロム酸鹽との混合熱溶液中に浸漬處理するマグネシウム及其合金

の防蝕處理方法に係る。

附刃バイトの熔接方法 (1) 第 1593 號 (昭 17-4-6) (2) 昭 16-11-11 (3)(4) 井口繁夫

本發明は圖に示す如く鋼幹材に溝型凹陷部を切削し該凹陷部の兩



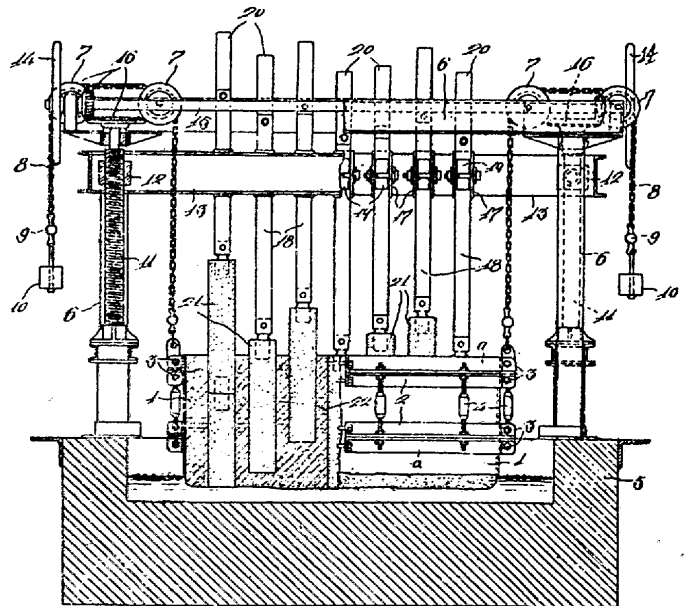
側面を内方向きに傾斜せしめ之に適合すべく削成せる高速度鋼刃片を嵌合し該高速度鋼刃片と鋼幹材を接觸電氣抵抗熔接装置の兩電極間に挿入せしめこれに加壓し乍ら電流を通じ高速度鋼刃片を少しく長目に仕上げ先づ傾斜せる兩側面の加壓を大ならしめて兩側面を熔融せしめ次に高速度鋼刃片が凹陷部に押込まれ底面の壓力の壓力を増すに従ひ底面を熔融せしむべくなし底面と側面とを併せ熔融せしむる附刃バイトの熔接方法に係るものである。

被覆電弧熔接棒 (1) 第 1594 號 (昭 17-4-6) (2) 昭 16-8-18 (3) 藤田守太郎, 吉川 享 (4) 株式會社昭和製鋼所

本發明は金屬棒に例へば熔鐵爐滓, 製鋼爐滓, 合金鐵滓, 熔銑爐滓又は電氣爐滓の如き鐵滓を主成分としこれに少量の造滓物質例へば珪石, 滑石及フェロマンガ粉末等を混和せる後これを水硝子又は其の他の膠着劑にて練合せて得たる熔劑を被覆せしめた被覆電弧熔接棒に係る。

電氣爐に於ける連續自燒成電極の補強帶移動裝置 (1) 第 1600 號 (昭 17-4-6) (2) 昭 15-8-24 (3)(4) 藤森龍磨, 近藤二郎

本發明は圖示する如く補強帶を外套の外側に二段以上装着してこれをボルト及ナットの類に依り緊締し各補強帶間にはターンバックルを裝置して前記のボルト及ナットとターンバックルに依り補



強帶を移動する如くなし更に該補強帶を平衡重錘に吊持せしめたる電氣爐の連續自燒成電極の補強帶移動裝置に係る。